

7月1日(日) Malta (Comino) ~ Marzamemi (60NM) 快晴

名残惜しいが日の出(05:50)と共にアンカーを揚げてシシリアに向かう。

日の出が美しい。この島の周辺はいたるところに錨泊地があり船が錨泊している。

午前中は風が安定せず帆走したり機走したりしていたが午後からフリーの良い風になり帆走を楽しむ。

Marzamemi はマルタに行くとき停泊したところで初めてでないので気が楽だ。18時にマリーナに入り馴染みのスタッフが出迎えてくれる。

今日はヨーロッパ選手権のイタリアとスペインの決勝戦があるのでテレビを放映している店を聞いたところ、マリーナの近くで美味しく、そしてリーズナブルなお値段と云うレストランを薦めてくれた。

試合は21時からなのでシャワーを浴びて21時にレストランに行く。レストランのボスが面白い人でメニューを見せずに厨房に案内してくれあれこれ料理中の品を説明してくれたのでそこで注文した。

タコのセロリ炒め、イワシのマリネ、クルマエビのグリルを先ず頼む。トマト味のスパゲッティは如何というから、スパゲッティポモドーロかと聞くとこれは小さなトマトなのでポモドーロとは違うと教えてくれた。トマトならすべてポモドーロと思っていたが勉強になった。これが又美味しかった。

タコのセロリ炒めはタコの炒め方も良かったがセロリが効いて中々の味だった。

そして隣の席の人が食べているムール貝の身が大きくて美味しそうだったのでそれも注文した。

ワインはシシリア産のカントリーワインを頼むが辛口で食事に合う。

食後はレモンシャーベットにする。お奨め通りの美味しいレストランだった。

サッカーはイタリアがスペインに3対0で負けたがお客さんは静かであった。

多分勝つと大騒ぎになるのかも知れない。

お腹が一杯で艇に戻りそのままぐっすり休む。

7月2日(月) Marzamemi ~ Siracusa (25NM) 快晴

朝方は風が吹かないので11時頃まで艇の水洗い等をして過ごす。11時に舳いを解き出港する。30分ぐらいしたら北東から7、8ノットの風が吹き出す。上りの風だが水面も静かで気持ち良く久しぶりのクローズホールドを楽しむ。

昼食時になり風が一時強まり20ノットを超えたのでジブ、メインともリーフする。それでも快調で6ノット以上キープする。

昼食の生ハムとトマト、オニオン、レタスの入ったいつものサンドウィッチは美味しい。

冷たいビールで頂く。

20ノットを超える風は暫くして治まりフルセールにする。

16時過ぎに風が落ちたのでエンジンをかけてシラクサーに18時に到着して前回も錨泊した湾でアンカーを打つ。ここは良い泊地なので安心だ。

7月3日(火) Sirakusa ~ Taormina (45NM) 快晴

06:30 アンカーを揚げてシラクサーを後にする。2時間弱機走した後北からの上りの良い風が吹き出したので帆走に代える。いつも良い風が続くことを期待するが中々自然は云うことを聞いてくれない。2時間ほどで風が弱くなり今日は最後まで機走になってしまう。

途中子供のイルカが顔を出してくれ暫く艇の周りで遊んでくれた。

今日も前回来たところで錨泊も気楽だ。

17時頃タオルミナの錨泊地に着いたら昨年カスカエスで知り合って今年シラクサーで再会したドイツ艇が錨泊していてまたまたの再会をCAVOKの上で祝す。彼らはこれからギリシャ、コルフ島に3日三晩で行くそうだが風待ちをしているようだ。

水深10mのきれいな海にアンカーを打つ。上から見えるぐらいだが泳いでアンカーの効きの確認をする。砂にしっかりめり込んでいた。

世界遺産の旧市街地の下のグランブルーの海でのアンカーリングは気持ち良い。

前回寄港した時に街の観光はしたので艇でゆっくりした時間を楽しむ。

夕食は街の明かりを見ながら鶏肉のヒレソテー、ポテトサラダ、ベーコンと炒めたねぎのマカロニ、グリーンサラダを頂く。

錨泊の艇での寝心地は気持ち良い。

7月4日(水) Tormina ~ Roccella Ionica(67NM) 快晴

今日のレグは距離があるので朝 05:30 にアンカーを揚げる。

05:51 にイタリア半島から朝日が昇ってくる。タオルミナの景色を後にイタリア本当に向かう。08:30 位から風が南で安定してきたのでジェネカーを揚げる。ただし相変わらず安定した風が持続せず今日は3回ジェネカーの上げ下ろしをする。

イタリア半島の靴のつま先の部分は平野が8%ほどしかなく経済が発展してないところだ。海岸線は海水浴場らしき景色が続くが海水浴客はまばらで田舎の海岸の感がする。

35NM ほど走りコースが北に変針するあたりから南の安定した風が吹き出しジェネカーを張り 7~8 ノットで快調に滑る。

途中同方向に4艇セーリングをしていた。

18:30 に Ionica の港に入る。ここは私設のマリーナがなく公共のマリーナで艇の大きさに関係なく停泊料が20€で安い。ただしシャワーもトイレも船用の電気も無い。

燃料を給油するところがなく機走も多かったので燃料が少なくなりここで給油をする。

ただしここには給油スタンドがなく港のスタッフが一緒にガソリンスタンドまで車で行ってくれ 20L の灯油缶2本 40L 購入してくる。

夕食は港の前に評判のピザラがあり、ここに行く。ナポリ風ピザでマルガリータとクアトロフロマージュを食べたが評判通り美味しかった。

前菜にイワシ、タコ、イカ、スモークしたサーモンとカジキマグロが入ったアンティパト・デ・マーレを頼むが中々の味だった。燻製のカジキマグロはシシリアの特産だそうだ。

最近ワインを頼むときカントリーワインを頼むがいつも食事にぴったりで外れがない。

7月5日(木) Roccella Ionica~Crotona(65NM)快晴

05:00 起床 05:20 アンカーを揚げて出発する。2時間程機走後徐々に予報通り南の風が吹き出したのでジェネカーを揚げて快走する。だんだん風が強くなり12~15 ノットの風を後ろから受け6 ノット以上の平均スピードを今日は一日満喫できた。

ここの航路はギリシャ、クロアチアに行くヨットの航路で4,5艇と追いつ追われつする。

折角イタリア半島の南端を岸よりに走るが、海岸から直ぐ山になり建物も少なく田舎の感じを受けた。

17:00 に Crotona の港に入る。この辺りのマリーナは田舎のマリーナという感じだ。ここは場所柄トランジット艇の停泊が多いようで岸壁にトランジット艇の停泊するところは Area Transita と書いてあった。港内も風が入り舳れを取るのを心配したが気の良いお兄ちゃんのスタッフが舳れを取ってくれ助かった。イタリアでは99%マリーナのスタッフが舳れを取ってくれるので助かる。槍付けの場合前の舳れロープを受け取るのにどうしてもポンツーン側に人が必要だ。

2 晩錨泊続き、そして前日のイオニカは電気、水道、シャワー無しでシャワーを浴びていなかったのでここで浴び気持ち良かった。

ここのところ連日長距離を走っているが明日も70NM 走ってその後暫くのんびりしたいと思っている。

夕食はミックス野菜のソテーとシーフードパスタを頂く。

ここの港には魚市場があるが夜も開いていたので芝エビを買った。

7月6日(金) Crotona~Santa Maria Di Leuca (70NM) 快晴

70NM の距離を走るのに平均6 ノットで約12時間かかる。平均6 ノットをキープするにはよっぽど風に恵まれないと難しい。朝05:00 に舳れを解く。日の出が05:30 なので外は明るくなっている。早朝出港の時何も食わず先ず海に出る。出港して一段落してからコーヒーを飲みながら朝日を仰ぐ。そのあと暫くしてか

ら今日は昨晚の残りをミネソトローネで頂く。

8時過ぎより南より追っ手の良い風が吹き出しジェネカーを揚げて最速9ノットを記録する。

Leucaの港の入り口でオンザサンドをしてしまう。パイロットブックには記載がなかったのとGPSのチャートには別の位置に浅瀬のマークがありそれを避けて入ろうとした矢先であった。砂の堆積が変化しているようだ。前進で抜けようと思ったが逆でかえって深みに入ってしまったようだ。無線でマリナーを呼んで助けに来てもらう。ラバーボートに押してもらい後進を入れて脱出する。17:30に舳いをとる。

ここは南イタリアの先なので開発が遅れていたようだが最近リゾート地として人気が出てきているようだ。海岸通りを歩いてみると海水浴客や観光客が散歩している。

夕食は茹でた芝エビ、アンディーブに生ハムとリッコッタチーズをのせたおつまみ、イワシのマリネ、最後にシジミと昆布だしの温麺を頂く。

明日から徐々に北風が強くなる予報だ。約一週間近く続く予報なので我々北に向かう者にはしんどい。

暫くここで風待ちをするか明日Brindisiに行つて風待ちをするか悩む。

結果明日Brindisi迄行くことにする。

7月7日(土) Santa Maria Di Leuca ~ Brindisi(65NM)快晴

今日で連続帆走日が一週間になる。それも60NM以上の距離を走っているので毎日12時間位海の上を楽しんでいる。基本的に悦子と二人の時は夜間航海をしないことにしているので明るいうちに航海して暗くなる前に港に入港している。幸いにお天気が良く、今まで北東進してきた我々にとって風も南からの追い風に恵まれきたが今日から風が北風に代わる予報だ。一週間くらい結構強い北風が続く予報なので北風が強まる前にBrindisiに行くことにした。

朝05:00に舳いを解く。丁度イタリア半島の足の踵の部分で帆走するが東南端は石灰岩の断崖の上に台地が続く家も殆どないが暫くすると海岸線になり遠くからもパラソルが眺望できる。このあたりから800キロメートルに渡り海岸線が続く海水浴場が点在している。

午前中はまだ南風で岸辺を見ながら機帆走するが午後になり北風に変わり上りになる。

Brindisiに着く2時間くらい前から片上りの風になり気持ち良い帆走を楽しめただけで殆どエンジン使用だった。

18:00に港のガソリンスタンドのある岸壁に横付けして燃料を補給した後マリナーに舳いを取る。

この辺りは陽光と肥沃な土地に支えられた豊かな食材、歴史的建築に裏打ちされた街並み、点在する明るく輝く海岸があるそうなので楽しみだ。

暫くここ滞在して風待ちを兼ねてアルベロッペロ、サッシを観光したり、又海水浴を楽しみたいと思っている。

シャワーを浴びて、マリナー内にミニスーパーマーケットがあったのでここで豚肩ロースと水牛のモツァレラを買い、夕食は豚肉のニンニク醤油のソテーとカプレーゼでいつも通りデッキの上で心地よい風を浴びながら頂く。

明日は休養日なのでゆっくり寝られる。

7月8日(日) Brindisi 快晴

今日からここでゆっくり4日間停泊することにする。

初日の今日は午前中艇の大掃除と洗濯をする。

このマリナーは商業港の中の一隅にある大きなマリナーだ。設備も良くミニスーパー、レストランもあり、ゆっくりするには快適な所だ。係留料7月のベストシーズンにしては安く14メートルの艇で一日49€だった。そしてオフシーズンは38€、年間5140€と安い。

ただ街より遠く、周りには何も無い。マリナーの横は海水浴場になっていて日曜日のせいか風が強いのににもかかわらず沢山の人が日光浴をしている。マリナーも賑わっている。

ここはアッピア街道の最終地点で古代ローマから貿易が盛んだったところだ。港からはギリシャの3地点に行く船が出ている。

お昼にペペロンチーノと黒トマトのサラダを頂いてから暫くデッキの日陰で昼寝をする。

連日の航海の後もあって実に気持ちの良い昼寝であった。

午後自転車を組み立て近所に探索に行くが何もなく暑さに参って早々に戻る。

今までの予定ではBariからドロブニコに渡る予定であったが110NMの距離があり一人でナイトウォッチは辛いので予定を変更してBariの先のViesteから60NM先のクロアチアのLastovo島に渡ることにした。ドロブニコは後半に小田切夫妻、上田さんと一緒に寄港するのでその時の楽しみにした。

夕食は久しぶりに和風にしてお稲荷さん、リコッタチーズ、イワシの酢漬けの生姜和え、黒トマトとアンチョビを頂く。

7月9日(月) Brindisi 快晴

北風に変わり涼しくなると思ったら大間違い日中は32度以上がる。幸いなことに夕方陽が沈んでくると暑さも治まりデッキで夕食を食べるときは長袖を必要とする日もある。

今日はBrindisiの街にバスで出かける。バス停がマリーナの出口にあるが1時間に一本だけだ。

街でバスを降りて早速アップピア街道の終点を示すシンボル古代ローマの円柱を見に行く。港の前の海岸通りの階段の上にアドリア海を見下ろすように太い大理石の円柱と角柱とが当時の繁栄を思わすように建っていた。古代ローマ時代の「すべての道はローマに通ず」の一端を見る事が出来た。

県立考古博物館に行ってみたが月曜日休みであった。

お昼は古代ローマの円柱の近くの海岸通りのお店でマルガリータとスカンピのパスタを二人で分けて食べる。喉の渇きもありビールが進む。

大きなスーパーマーケットがあったので買い物をしてからマリーナに戻る。戻ってから一休みして私はマリーナの隣の海水浴場で体を冷やしに行ったが水温が高く冷やすまでには至らなかった。

PCのインターネットはUSBキーを使ってやっているがIPADはWIFIが必要なのでマリーナのバーに行き、電子書籍の購入をする。

一昨日一緒に着いたスエーデンの艇は出港していた。彼らとは同じ方向に行くので再会が楽しみだ。

夕食は豚肉の肩ロースのトマトソース煮込み、付け合せはジャガイモのガーリックソテー、野菜サラダ、オリーブそして最後に昨日の残りのお稲荷さんを頂く。やはりご飯は日本人には必需品だ。

7月10日(火) Brindisi (快晴)

朝9時にレンタカーがマリーナに届く。今日はレンタカーでアロベロベッコ、マテーラのサッシとカステル・デル・モンテの三つの世界文化遺産を廻る。

お弁当に三日目のお稲荷さんとゆで卵を持って最初にアルベロベッコに行く。

途中の高速道路では両サイドに背の低い夾竹桃が白、うすいピンク、ピンク、濃いピンクそして赤と色鮮やかに10KM以上植えられていて青空の中太陽に照らされ綺麗であった。

アルベロベッコの近くに差し掛かるとトゥルツリの家が散見してくる。アルベロベッコの旧市街地に入ると真っ白な壁に灰色の石の円錐形の屋根を持ったトゥルツリが見事に青空の下、輝いて見える。一度は見てみたいと思っていたがお伽の国に来たようだ。トゥルツリの家の中で開いているお土産屋さんが軒並みにあるがその中の一軒がトゥルツリの中を見せてくれるというので覗かせてもらう。中も漆喰の白いきれいな壁でこじんまりした部屋がいくつかあり狭いスペースを機能的に使えるようになっていた。室内は、冬は暖かく夏は涼しく出来ている。

流石にここは有名なので日本からの観光客も来ていた。

次にマテーラのサッシ地区に行く。洞窟住居だが石灰岩の山の斜面にびっしりと建物がある。グラヴィナ渓谷を挟んでマテーラの反対側には旧石器時代の集落跡も発見されている。もともとは8~13世紀にかけてイスラム勢力から逃れてきた修道僧が住み始めたそう

だ。

ここは 1950 年に不衛生と不便ということで住むことが禁じられていたが 1970 年代以降その評価が見直され現在では洞窟住居の 7 割に人が住んでいる。

3 番目にカステロ・デル・モンテに行く。1200 年代に当時南イタリアを統治していた皇帝フリードリヒ 2 世が建造させた八角形のお城だ。360 度を見渡せる小高い丘の上であり、すべてに八角形の形を用いたユニークな城だ。このお城はすべて色大理石で覆われていたそうだが現在はその一部しか残されていない。

三か所廻る間どこまでも続く丘陵地帯にオリーブ、ブドウ、小麦、アーモンドが植えられ、そして牧草地帯が広がり北海道の農場地帯によく似た大地が広々とした光景だった。

プーリア州はイタリアでもっとも農業の盛んな所だそう。牧歌的な風景を見ながらのんびりとしたドライブが出来た。ここから約 150 km 離れているプリンデッシに帰ったのが 20:00 になっていた。マリーナから近い空港でレンタカーを返して空港で食事してタクシーで艇に戻った。

7月11日(水) Brindisi 快晴

今日はゆっくり艇で過ごすことにして航海の調べものをする。コースを変更したのでイタリアから出国する予定の Vieste で出国手続きが出来るか? Lastovo で入国手続きが出来るか? 今後のコース等々調べていると時間があつという間に過ぎてしまいお昼になる。悦子は読書三昧を楽しんでいる。

お昼はソーメン、缶詰のイワシのかば焼きと生野菜を頂く。

食後お昼寝をデッキの上の日陰でする。心地よい風が気持ち良い。

昼寝の後運動がてら海水浴に行く。夏休みなので子供ずれの家族が多く来ていた。

明日からの航海に備えてマリーナのミニスーパーで買い物をする。ミネラルウォーターとビールの消費量が暑さのためか結構多く、これらは重たいので自転車で運ぶ。

日が暮れ夕食にはアンディーブとプロシュート、リッコタチーズこれは冷奴に似たテクスチャーでわさび醤油を付けて食べてみた。チーズとは思えない味이었다。そして鶏肉のヒレのグリル、アルペロベッコで買ったオリーブ、花付きズッキーニそして野サラダをプリアー州産の白ワインで頂く。美味しかった。

7月12日(木) Brindisi ~ Bari (60NM) 快晴後曇り驟雨その後快晴

16日以降の天候が北の強風が予報で出ているので15日までにクロアチアの Korcula 島まで渡って行きたいので今日から Bari, Vesta そしてアドリア海を渡り Lastovo 島まで連日航海で行く予定だ。コルチェラは人気が高いところなので予約が必要ということなので昨日 15 日停泊の予約を入れておいた。

05:50 に航いを解き生憎の迎え風の中機走する。風の強弱に応じてセールを揚げたり降ろしたりするが安定せず 60NM 全行程機走になる。

午前中快晴であったが昼前よりイタリア半島に積乱雲が湧いてきて Bari に着く 2 時間前にこの雲が被ってきた。突風を予想してセールは降ろしていたが海面が白波だらけになり

驟雨と共に 30 ノットを超える風が吹き出した。Bari に入港するころには治まり Bari 港の C.U.S Bari のポンツーンに 17:10 横付けする。

いつも港のマリーナに航いを取るとホットすると同時に充実感を味わう。ここの皆さんは親切で航いを取ってくれたり事務所を教えてくれたりホスピタリティが一杯だ。

諸手続きをした後デッキで飲むビールは又格別の味だ。

夕食はオリーブとカプレーゼ、ナスとジャガイモ、玉ねぎとひき肉の重ね焼き、アンディーブ、ルッコラのサラダを頂く。

7月13日(金) Bari~Vieste(55NM) 快晴

昨日 Bari から一緒に来たフランスのカタマラン艇も今日 Vieste に行くとの事で今日も同じコースになる。

我々は彼らより早く 05:50 に舫いを解く。今日も風がなく機走で 6 ノットの速度で走る。お昼過ぎに南風が吹き出しジェネカーを揚げる。だんだん風が強くなり 15 ノット前後になり快調に走るが残りが 11NM になってからだった。

Vieste の港に入るときコーストガード艇が来て左に寄ると浅いからと注意してくれる。

15:00 舫いを取る。横風がきつく槍付けで舫いを取るの難しいが大分慣れてきてスムーズに行くようになった。ここは漁港にマリナーを造った感じのところでローカルマリナーという感じだがマリナーを仕切っているおばちゃんが英語も達者でなんでも私に相談してくれとの事で助かる。

ここでイタリア出国するので手続きをおばちゃんに確認したが出国のスタンプはここではもらえず、コーストガードが書類を作ってくれそれで良いそうだ。コーストガードに行ったらオフィスのオープンが 09:00 から 12:00 との事で今日は手続きが出来なかった。

明日朝一番で行くことにした。

週末のせいかマリナーも賑やかだ。フランス艇とここで再会した。彼らはベニスに行きそこで家族が集まりクロアチアを航海する予定だそうだ。友人の Paolo からベニスのマリナーを聞いたので教えてあげる。彼は 4 か所ベニスのマリナーにメールを送ったそうだが返事が来たのは一か所だけだそうだ。彼からは我々が明日行く予定の Lastovo の情報を教えてもらう。5 年ほど前に行ったことがあってレストランの棧橋に着けて食事をすれば一晩無料で停泊できるとの事だ。上手く行けばこの方法を明日使いたい。

チャンドラーでクロアチアの旗を買い、イタリア最後の絵葉書をポストに入れる。

夕食はキュウリのサラダ、生ハムとサラミ、オリーブ、リコッタチーズのわさび醤油、ソーメン入りスープ、メインは中身たっぷりのオムレツと付け合せは普段草のガーリックソテーを地元の白ワインで頂く。

7月14日(土) Vieste~Lastovo(Ubli) (60NM) 快晴

風の関係もあり今朝イタリアを出発したいがコーストガードが 9 時から開くということで開くのを待って、出国手続きが終わり次第の出発になった。

出来るだけ早く手続きを終了したいので 8:30 に行ったら開いていて直ぐ手続きをしてくれた。パスポートにはスタンプを押して貰えず、出国記録なしで出国することになった。

他の例を調べてみてもこのような例が多く、問題になってないのでそのまま行くことにした。このマリナーのキャプテンは年配の女性で英語、フランス語も堪能ですっかり面倒をみてもらった。

レストラン棧橋に着ける予定も考えたが夜半風が強く吹く予報が出ているので Lastovo 島の Ubli にあるホテルのマリナーを出港前に予約した。

風は追い風だが弱いので機走で走る。暗くなる前の 8 時に着くには平均 6 ノット以上で行かないといけないので機走がメインになる。

14:00 過ぎよりアビームの風が吹き出し機帆走で 7 ノット以上キープして走る。

Lastovo 島の手前 10NM 辺りで 10 階建てぐらいの地中海豪華客船とすれ違う。

Ubli の湾は奥が深く錨泊には最適だ。湾内にも小さな入り江がありそこにヨットが数隻それぞれ錨泊している。

Ubli は出入国を管理している港なので村のフェリー岸壁につけて手続きをしようと思ったがフェリーが岸壁に着岸していたので諦めて先にマリナーに行く。

ホテルのマリナーは小さなマリナーで岸壁に槍付けだ。手伝いのスタッフが来ないので電話で呼び出して手伝ってもらい、18:00 に舫いを取る。ホテルで入国の件を聞くと電話してくれたが、艇で岸壁まで来るようにとの事なので舫いを取りフェリー岸壁に行く。丁度フェリーが出る時だったのでそれを待って岸壁に着ける。最初警察に行き入国書類を作ってもらいパスポートにも入国のスタンプを押して貰う。このスタンプは我々にとって重要でヨーロッパのシェンゲン条約に入っている国は 90 日間ビザ無しで滞在できるが 90 日以上は出来ない。イタリアで出国のスタンプが押されていないので、我々はシェンゲン条約をクリアする意味でクロアチアの入国のスタンプが欲しかったのでほっとする。

警察の後コーストガードに行き艇の入国の手続きをする。そして観光税なのか 1 か月クロアチアに滞在ということで 2500 クーネ徴収される。

再びホテルのマリーナに舫いを取り早速海に飛び込む。水の透明度が良く係留してあるところの底が綺麗に見える。

初めてのクロアチアだったが Lastovo が小さな美しい島で感激する。夕食は遅くなったが簡単にできるスバゲティアラビアータ、カプレーゼ、生ハム、サラミ、オリーブで頂く。

疲れもあったがクロアチアに着いた安堵感でホッとした後の夕食はワインと共に美味しかった。2 か月以上滞在したイタリアも堪能したがこれからはクロアチアの歴史と自然を堪能したいと思って休む。

7月15日(日) Lastovo~Korcula (30NM) 快晴

Lastovo にはもう少し滞在したかったが明日から3、4日北風が強く吹く予報なので今日出港することにする。午前中はまだ風が強かったので出港はお昼にすることにして島内を少し散歩する。この島は田舎のバカンス村の趣があり気に入った。ベニスからの帰りに又寄りたところだ。マリーナを管理しているホテルのスタッフが日本人が来たのは初めてだということで島のDVD、キーホルダー等をプレゼントしてくれる。

両サイドの艇の人たちも親切で名残惜しかったが12:00に舫いを解き皆さんとサヨナラする。

島の東側を回り込むようにして korcula に向かう。南南東の強い風で上り一杯で走るが7ノット以上のスピードをキープする。途中風が17、8ノットまで上がったので早めにジブをリーフしたが直ぐ風が15ノット以下に落ち着いたのでフルセールに戻し快走する。

Korcula の北側に入ると島が点在していてその間を抜けていく。Korcula の海峡を挟んだ北側は本土だが海岸までそびえ立つ山と山麓にあるレンガ色の屋根の集落が西日に照らされ綺麗だった。

旧市街地を見ながら Korcula のマリーナに来ると2艇程先着のヨットが入港待ちをしていたので我々も彼らを待ってポンツーンに着ける。その後も何艇か入ってきて狭いマリーナは一杯の感じだ。天候の関係もあり予約しておいて正解であった。20分ほど待って18:00に舫いを取る。

このマリーナはACI Marina と云うクロアチアに12のマリーナを運営している一つのACI Korcula という所が管理しているところで、近代的なしっかりした管理をしている。施設又スタッフも申し分ない。何といってもロケーションが良い。旧市街地の脇にあり対岸は素晴らしい景色だ。感激した。

クロアチアはチャーターヨットが多く隣はドイツ人のチャーター艇で二組の夫婦で2週間の休みで来ているそう。次はどこに行くか聞いたらお天気次第で未定との事、素晴らしいバカンスだ。

早速海岸通りを歩いて旧市街地に行ってみる。観光は明日にして明日の夜にあるモレシュカと云うコルチュラの伝統的踊りの予約をする。

艇に戻ってからマリーナの脇にある海水浴場で泳ぐ。ここも水が澄んできれいだ。

夕食は胃を休めて明日クロアチア料理を食べるのを楽しみにして和食にする。日本からのお米がないのでイタリアで購入した丸米だったがマツタケ風味で良く炊けていた。おかずはひじき、胡瓜モミ、イワシのかば焼き、味噌汁で頂く。



